

第76回RISMセミナーシリーズ データ駆動型AIセミナー(第20回)

『データ駆動型研究を取り入れた材料開発の取り組み』

菅原 勇貴 助教 (東京工業大学)

材料開発に要する時間・コストを大幅に低減できる手法として、機械学習などデータ科学の活用が注目されている。本講演では、元々実験屋であった講演者が、電極触媒および高分子材料の研究開発にデータ駆動型研究を取り入れた事例を紹介する。

『石化成分製造最適化技術開発』

日向 貴洋 様 (ENEOS株式会社)

近年、廃プラスチックやバイオマスを石油原料に混合し、製油所で共処理する技術が開発されている。極めて複雑な反応系の予測・最適化が必要となることから、ニューラルネットワークを用いた反応予測シミュレータを作成したので紹介する。